

スカートにおける作図上の問題点

タックスカートにおけるタック分量とタック線の傾斜について（第2報）

榎 本 春 栄

I 緒 言

タックスカートにおけるタック分量とタック線の傾斜の関係については、前回の仮製作による実験で、その傾向を一応つかむことが出来た。

今回は、その結果を授業などに実際に活かしていく事を目的とした研究を行うことにする。授業の場合は、個別製作ではあるが、多人数であるということを考慮し、作図上で応用のきく基本の数値を求めておく必要があると考えている。そこで、前回仮製作をした5枚のキュロットスカートにより、タック線の傾斜の平均値をそのまま応用してもさしつかえないかを見極めるとともに、ファッション雑誌の中の作図との係わりも調べてみたい。また、既製服に着目し、基本の数値を、いわゆる既製服サイズの9号と7号に適用した場合、ヒップ寸法の異なる複数の被験者（買い手）にどの程度適応するかということの試着実験も合わせて試みることにする。

II 方 法

1. 第1報に記した実験結果から、前後タック線傾斜値の平均を算出する。その平均傾斜値によるタック線を、前回仮製作を行ったタック分量の異なる5枚のキュロットスカートのタックの位置に縫い印で示し、スタンに着用させ、その傾斜によるタック線が美的感覚上適当な範囲の状態であるかの判断をする。なお、スタンは前回と同様キイヤのパンツ用ディスプレイボディ(ウエスト65cm、ヒップ90cm)を使用する。また、5枚のキュロットスカートのタック分量と前回の実験結果によるタック線の傾斜値については表1に示す。
2. スカート特集のファッション雑誌より、前後各4本、計8本のダーツ又はタックのあるスカートを選び出し、その分量の傾向をとらえる。
3. 次に示す寸法・作図・材料により、キュロットスカートを2枚仮製作する。

4. キュロットスカートの試着による観察実験を行う。

(1) 被験者 21才～22才 女子大生 6名

既製服サイズ9号着用者3名、7号着用者3名である。9号サイズ着用者のウエスト寸法は63cmと64cm、7号サイズ着用者は60cmと61cmであるが、ヒップ寸法はそれぞれ86～93cm、85～92cmと差が大きい（表2）。

表2 被験者のサイズ

(単位cm)

被験者 \ サイズ部位		ウエストW	ヒップH	HとWの差	備 考
9号(M)サイズ 被験者	M-1	64.0 (63.5)	86.0 (86.5)	22.0 (23.0)	ショーツ パンティストッキング
	M-2	63.0 (62.0)	90.0 (89.0)	27.0 (28.0)	ショーツ パンティストッキング
	M-3	63.0 (62.0)	93.0 (90.0)	30.0 (29.0)	ショーツ ガードル
7号(S)サイズ 被験者	S-1	60.0 (60.5)	85.0 (85.0)	25.0 (24.5)	ショーツ ガードル
	S-2	61.0 (61.0)	89.0 (88.0)	28.0 (27.0)	ショーツ ガードル
	S-3	60.0 (62.0)	92.0 (90.0)	32.0 (28.0)	ショーツ

※備考欄は、スカート着用実験時の下着の状態であり、()内の寸法は、その時点で実験者が採寸したものである。


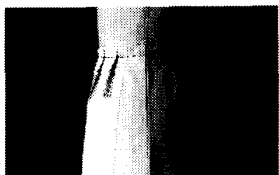
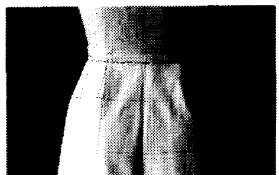
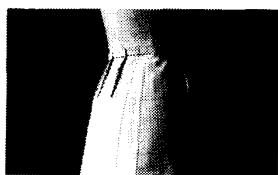
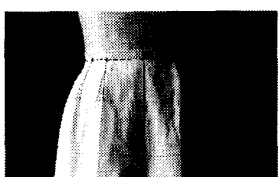
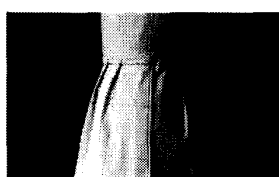
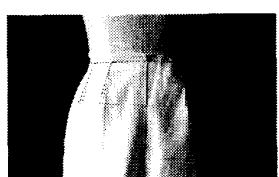
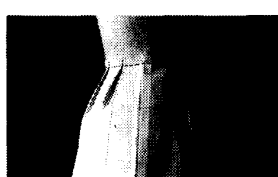

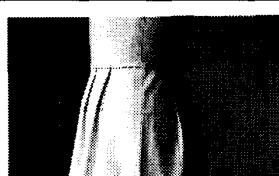
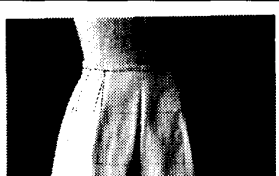
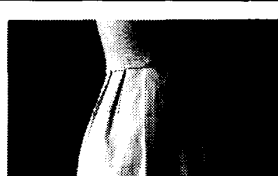




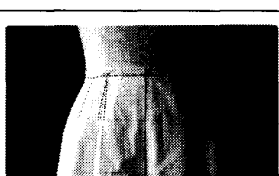



(2) 9号および7号サイズで仮製作したキュロットスカートを各サイズの被験者に着用させ、タック線の落ちつき具合及びウエストとヒップとのバランスを調べる。また、特にバランスの悪い者に対しては、その原因を探る。

III 結果及び考察

1. 前回の実験結果は表1に示したが、それにより前後のタック線の平均傾斜値を算出すると、後ろスカートが0.8cm、前スカートが0.6cmとなる。この基本とすべき傾斜値によりタックをたたんだものが写真1である。

スカートNo.1は前スカートの脇側タックの傾斜に無理が生じ、0.4cmの広がりを示した。それに対し、後ろスカートにおいては、中心側タックの傾斜が心もち多いと思われるが、

写真1 スカートNo.1～No.5のタックをタック線の平均傾斜値（後ろ0.8cm、前0.6cm）でたたんだ状態

スカ ート No. 1				
スカ ート No. 2				
スカ ート No. 3				
スカ ート No. 4				
スカ ート No. 5				
	前	左脇	後ろ	右脇

外観上はほとんど気にならない状態である。全体のバランスからみると、ヒップに対するゆとりが少ないため、かなりフィットしているのに反し、写真の左脇と右脇に示されたようにタック部分が浮いた状態になり、見た目の美しさを損ねている。この場合は、タックをダーツに変え、全体を体にフィットさせたならば美しいシルエットになると考えられる。スカートNo.2は前後ともタック線の傾斜に対する違和感はないが、後ろスカートに関しては、タックの特徴であるソフトさがあまり表現されていないように思われる。スカートNo.3は平均値が前回の結果と同じ値であり、スッキリとしたタックになっている。スカートNo.4とNo.5に対してこの平均傾斜値は、前回の値と多少異なるが、影響はほとんどないといつてよい。

以上、スタンに対するスカート試着の観察結果からは、ヒップに対するゆとりの少ないもの、つまりタック分量の少ないものは傾斜値の影響を受け易く、逆にゆとりの多いもの、つまりタック分量の多いものは影響を受けにくいという傾向がみられた。見た目のバランスから考えて、スカートNo.1のようにタック分量の極く少ない場合を除いては、ミドルヒップラインの位置における後ろスカート0.8cm、前スカート0.6cmというタック線の傾斜値は、かなり有効な値として授業に生かすことが出来るという実験結果を得た。

2. スカート特集のファッション雑誌3冊中の作図834着の中からダーツとタックの分量に対する傾向を調べてみることにする。まず、前後スカートに各4本、計8本のダーツを入れたデザインのみ57着を選び出し、半身各位置のダーツ分量ごとの集計をすると表3のとおりである。ダーツ分量は1.5cm～3.0cmの範囲内にとどまっており、特に2.0cmと2.5cmに

表3 スカート半身分のダーツ分量と本数

ダーツの位置 ダーツ分量 (cm)	後ろスカート		前スカート		57着分 228本
	中心側	脇側	脇側	中心側	合計
1.5	2	5	6	2	15
2.0	18	25	23	23	89
2.5	20	18	21	24	83
3.0	17	9	7	8	41

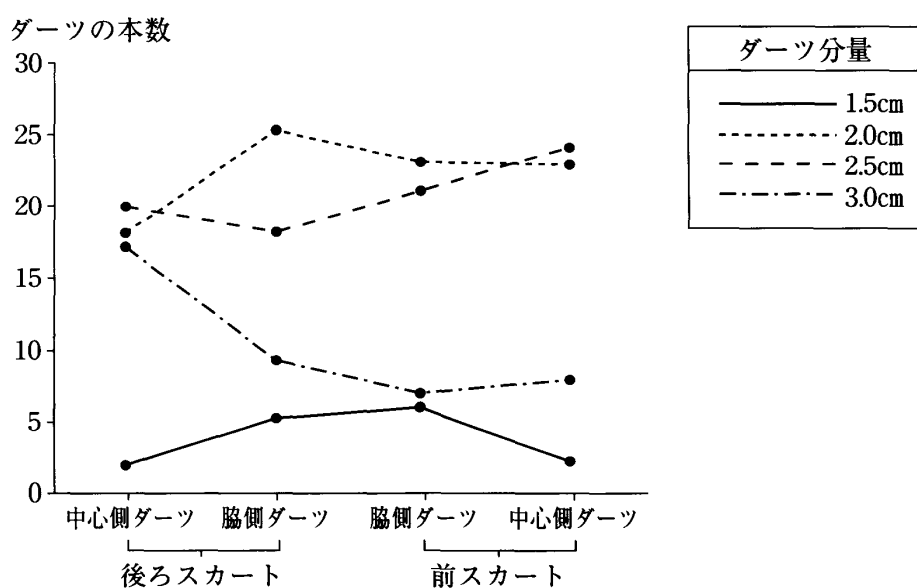


図2 ダーツ分量の比較

集中していることが図2により明らかである。一方、タックに着目し、ダーツと同様前後スカートに各4本、計8本のタックを入れたスカートを選び出すと12着であり、ダーツと比べるとかなり少ない。この12着のタック分量を表4に示したが、3cmから14cmまでとデザインにより量的範囲がかなり広がっている。また、ダーツと異なる点としては、位置により分量を変えていくことが少ないと考えられる。なお、一部分にダーツを入れたデザインのことを総て選び出すと243着あるが、その中でダーツ分量が最も少ないものは表3に示した1.5cm、最も多いものは後ろスカートの左右に各1本ダーツを入れたデザインのもので4.0cmであった。また、タックに関しては171着であったが、最も少ないものはウエスト全体にタックを入れたもので1.5cmであり、最も多いものは表4に示した14.0cmであった。

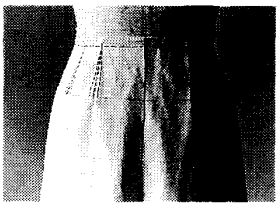
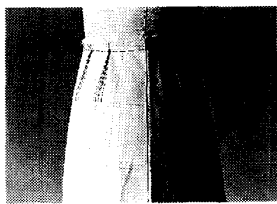
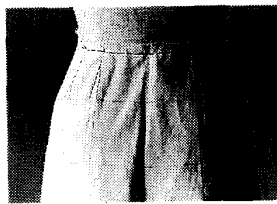
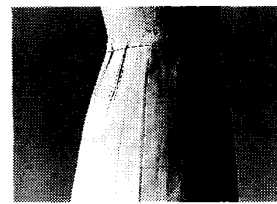
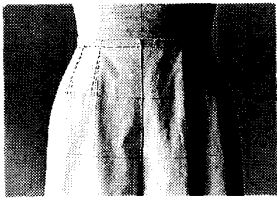

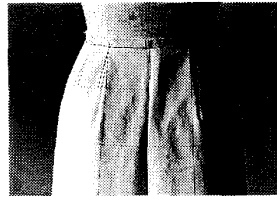
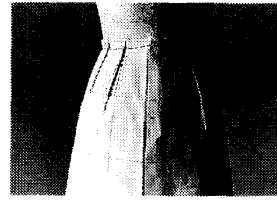
表4 スカート半身分のタック分量
(単位cm)

タックの 位置 スカート	後ろスカート		前スカート	
	中心側	脇側	脇側	中心側
1	3	3	3	3
2	4	4	4	4
3	4	4	4	4
4	4	4	4	4
5	4	4	4	4
6	4	5	5	5
7	5	5	5	5
8	5	5	5	5
9	7	7	7	7
10	9	9	9	9
11	9	10	10	9
12	12	14	12	10

以上ファッション雑誌の作図の集計と先のスタンによる着用観察とを合わせて考えると、ウエストからヒップにかけてのシルエットをより美しくするためには、3cmを境として少ない場合はダーツ、多い場合はタックにするのが妥当なのではないかと考えられる。この結果を踏まえて、スカートNo.1とNo.2のタックをダーツに変えてみたものが写真2である。No.1はとてもすっきりとしたシルエットになった。しかしNo.2は後ろはきれいであるが、

前はダーツの先端部分にゆとりが多少ありすぎるようにもみえる。写真1のスカートNo.2と写真2のスカートNo.2の前スカートを比較した場合、どちらがより美しいとはいきれない部分があり、2.5cmから3.0cmの間（スカートNo.2は2.8cm）のものは、他の要因に応じてダーツとタックを選びわけるべきであると考えられる。ちなみに、ファッション雑誌3冊中に後ろスカートがダーツ、前スカートがタックというデザインのものは33着あった。なお、4.0cmのダーツ及び14.0cmのタック等に関しては、今回の実験範囲外の分量であるため今後の研究課題にしたいと考えている。

写真2 タックをダーツに変えた状態

スカート No. 1				
スカート No. 2				
	前	左脇	後ろ	右脇

3. 先の実験により得られたミドルヒップラインの位置でのタック線の傾斜値、後ろ0.8cm、前0.6cmを作図の中に取り入れた9号サイズ及び7号サイズのキュロットスカートの試着結果は写真3に示す通りである。また、各被験者の着装によるタック線の開きの状態を、それぞれの中心側のタック線を体にフィットさせた形で観察した結果を図で示すと表5のようになる。

M-1はウエストとヒップの差が標準サイズの差よりも少ないため、一部重なりを示す部分があったが、タックは大体フィットしている。しかし、体型的に右半身の張りが強いいため、後ろ右脇タックはウエストから4cmのところで0.4cmの広がり、前右脇タックは0.7cmの広がり示した。M-2は9号サイズに極く近いサイズであることから、かなり体になじみ、きれいなシルエットになっている。着用時のウエスト寸法はメジャー採寸により62cmであった。タックスカートの場合、ウエストに多少の余裕があることもシルエットを

写真3 被験者による9号(M)サイズ・7号(S)サイズの試着



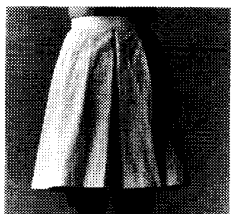
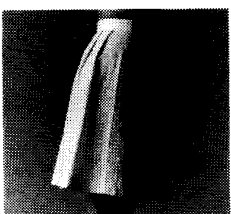

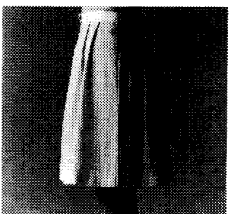
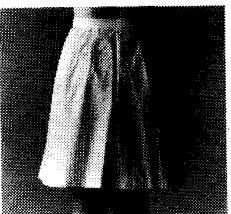
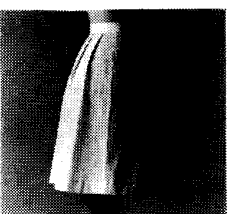
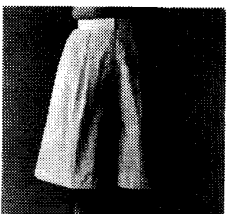
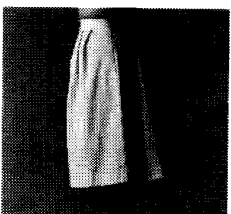
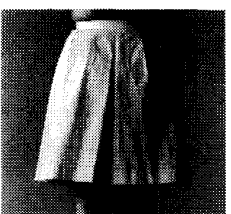



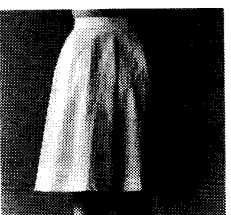
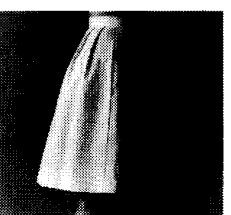

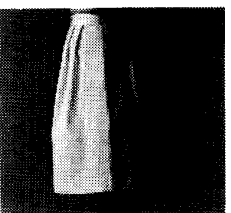






写真3-1 9号(M)サイズ	M-1				
	M-2				
	M-3				
写真3-2 7号(S)サイズ	S-1				
	S-2				
	S-3				
		前	左脇	後ろ	右脇

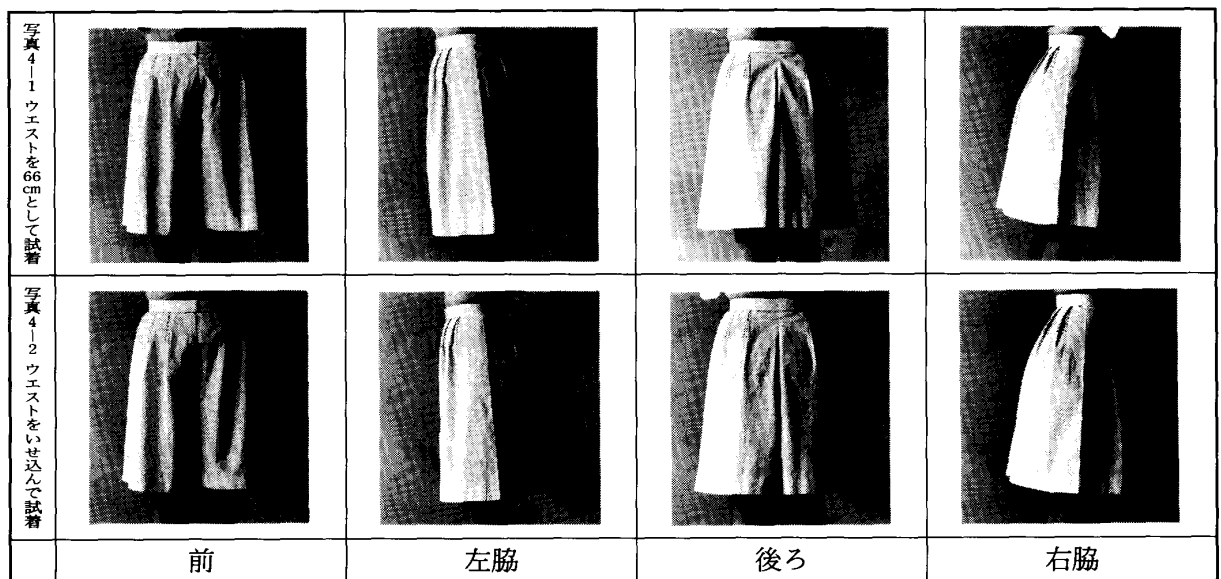
表5 被験者着用時のタック線の状態 (縮尺 縦の線 $\frac{1}{4}$ 幅 $\frac{1}{2}$ 単位cm)

タック の 位置 被験者		後ろスカート				前スカート			
		左脇側	左中心側	右中心側	右脇側	右脇側	右中心側	左中心側	左脇側
9号(M)サイズ	M 1	0.1 			0.4 	0.7 	0.3 		0.3
	M 2								0.1
	M 3	0.5 			0.8 		0.2 		1.2
7号(S)サイズ	S 1	0.2 							
	S 2	0.5 				0.5 			0.5
	S 3					0.2 			0.4

※実線は中心側のタック線、点線は脇側のタック線を示し、実線を基準にした図である。

美しくする要因の1つであると考えられる。M-3は脇側タック総てにかなりの無理が生じている。この場合は、タック線の傾斜というよりも腰の張りの強い体型であるとともに、ガードルにより体を締めつけすぎているためと思われる。既製服サイズからいうとワンサイズ上のものを求めると美しいシルエットで着用することが出来るのではないかとと思われる。ちなみに、ガードルをつけずパンスト着用時のサイズはウエスト64cm、ヒップ91cmであった。写真4はスカートNo.3を応用し、11号(L)サイズのウエスト寸法(66cm)とし着用したものと、ウエストサイズをいせ込みにより64cmとし着用したものである。写真3-1のM-3と比較すると2例ともかなり美しいシルエットになった。タックスカートの場合によってはウエストのいせ込みが必要であり、時には体にフィットしにくいタックスカートにこそいせ込みをする必要があるのではないかと考えている。

写真4 被験者M-3がスカートNo.3を試着



S-1はウエストとヒップの差が、先に行った実験の差と同じであったことも要因の1つであると考えられるが、とても美しいシルエットである。S-2とS-3はサイズとしては7号より多少大きめであるため幾分タックの開きなどがあるが、それによる他の部分へのツレなどの影響もあまりなく、応用範囲内のきれいなシルエットということが出来る。

先の実験により得られた傾斜値を作図に取り入れた9号サイズ及び7号サイズのキュロットスカートは、体型やサイズの違い、ファンデーションを日常どのように身につけて

いるかの違いにより、多少補正やサイズ変更の必要も出てくるが、全体としてはかなり適応すると考えてよいのではないかとの結果を得た。

一般に既製のスカートを購入する場合は、ヒップが入らない場合を除きウエスト寸法に合わせて選ぶことになるが、タックスカートに関しても、ある程度のヒップサイズの違いはシルエット上あまり問題としなくてもよいのではないかと考えられる。

IV 要 約

前回に引き続き、今回もタックスカートに着目し、試着実験を中心に研究を進めた。今回は、タック線の傾斜値を授業にどう取り入れたらよいかということを主な目的としたが、ミドルヒップラインの位置で後ろスカートが0.8cm、前スカートが0.6cmという一応の基本とすべき数値を得ることが出来た。今後はこの数値を取り入れた作図をもとに授業を進め、効果の過程を追求していきたいと考えている。また、自分の体型やサイズを把握すること、あるいは、衣服のシルエットをより美しく表現するためには、ファンデーションにより体型をどう整えたら良いかを考えることが、立体構成の基本として特に大切であることを理解させるとともに、個別製作時あるいは既製服購入時にその知識を最大限に活かしていけるよう指導していきたいと考えている。

参考文献

- 榎本春栄 和洋女子大学紀要第36集（1996）
 田中千代 服飾事典 同文書院（1975）
 so-en別冊'91 初夏のスタイルブック（1991）
 ブティック・ムックNo. 36 スカート全書No. 3（1965）
 レディブティック11月号臨時増刊 かんたんスカート（1989）
 レディブティック4月号臨時増刊 私のスカート（1992）

榎 本 春 栄（本学助教授）